

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	2	大学等名	県立広島大学
テーマ	テーマⅠ アクティブ・ラーニング		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、アクティブ・ラーニングを牽引する教員（ファカルティ・デベロッパー（以下、「FDer」という））と学修支援を担う学生（学修支援アドバイザー（以下、「SA」という））の養成、能動的学修の実践など教育改革の推進が行われたことは高く評価できる。また、学長のリーダーシップの下、組織的な改革により、当初の計画をはるかに超えて大学改革が加速され、公立大学の、また複数大学が統合された大学における成功モデルとなったことは高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、各年度の計画に基づき、着実に事業が実施されたことは評価できる。また、「FDerの人数」及び「SAの人数」の実績値が目標値を大幅に上回っており、教育改革を担う人材の育成が進んでいる。中間評価及びフォローアップにおいて指摘された課題に対しても、その都度迅速かつ適切に対応しつつ、学生・教職員が共に教育改革に取り組む体制を整えたことなども十分に評価できる。一方で、必須指標の目標値に未到達であった3指標のうち、「アクティブ・ラーニング科目のうち必修科目数の割合」については、アクティブ・ラーニング実施数が増えると相対的にこの指標値が低下するとの分析がなされており、これは本質を突いた指摘である可能性があることから、各指標算定の調査・集計方法と併せて更なる検討を期待する。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学内の事業実施体制及びFD実施体制が整備され、外部評価組織である「AP評価委員会」に加えて法人としての評価も受けるなど、取組の適切な自己・外部評価実施体制が整備されていることは十分評価できる。また、補助期間終了後については、学長直轄の「高等教育推進機構」の新設、「教学IR推進室」への教員配置、「大学教育実践センター」の設置等、組織整備と専門人材配置などの実施体制の整備に加え、必要な予算も確保されており、事業の継続・発展が期待できる。

事業成果の普及については、毎年多くの参加者を集めた「県立広島大学教育改革フォーラム」の実施、広島県の大学コンソーシアムを通じた成果の還元及び「広島版『高大接続モデル』の実現に向けた高大連携」による中等教育関係者との連携などは他地域の公立大学においても参考となる取組であり十分評価できる。また、広島県教育委員会が管理機関である文部科学省「WWL コンソーシアム構築支援事業」への参画など、補助期間終了後も連携の発展が期待される。